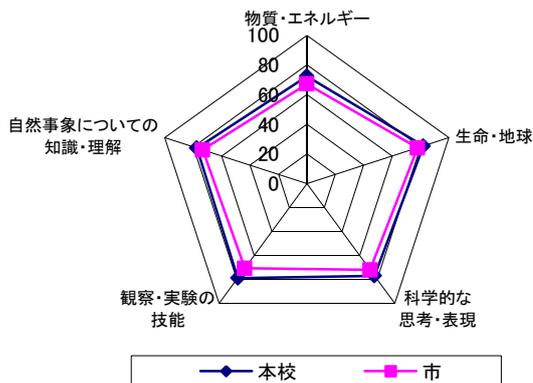


宇都宮市立今泉小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	物質・エネルギー	72.4	67.2
	生命・地球	82.0	77.9
観点別	科学的な思考・表現	77.0	72.0
	観察・実験の技能	78.8	70.7
	自然事象についての知識・理解	77.5	73.4



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>・平均正答率はほとんどの問題で市の平均を上回る。特に、「水溶液の性質とはたらき」では高い正答率で、十分な理解がなされているといえる。「ふりこのきまり」では「ふりこが1往復する時間とふりこの長さ」の関係についての理解が十分であるにもかかわらず、ふりこの重さと1往復するための時間を比較するための実験の方法を選ぶ問題では正答率が市の平均をわずかに下回る。</p>	<p>・実験・観察をする際には、その方法を教師が与えるのではなく、児童に考えさせ、効果的な比較実験の方法を考える力を育てていく。そのために、自分たちが考えた方法について、比較したいことが何であるかが明確か、実験の条件がそろっているかなど、比較実験の基礎的事項を確認し、実験・観察をする学習を積み重ねることにより、活用力を育てられるよう指導する。</p>
生命・地球	<p>・1項目を除いて正答率が市の平均を上回る。肝臓のはたらきについての問題では45%と正答率が低く、肺や小腸、ぼうこうのはたらきをあげる児童が多く見られるなど、体内の各臓器のはたらきについての理解が十分ではない。</p>	<p>・体の各臓器のはたらきについて、消化器系と呼吸器系について、個々の臓器のはたらきの学習にとどまらず、大きな流れとしてとらえられるようさらに意識付けを図る。その際、教具や視聴覚資料等を活用しながら、個々の学習を関連付けて指導する。</p>